一子相傳 心躰安樂丸

（しんたいあんらくぐわん）

但シ 朝中夕共に用ひてよし

一 忠孝（ちうかう）ハ人道（じんだう）なりけれどもその

一 信心（しんじん）ハまことをまもれあしくそれ

一 よみものハうちわれあんなひぞ

一 ぞうまんハちゑのゆがみなり

一 さひわひハその家業之のせいと

一 むだの会釈（ゑしやく）ハ三ッかん氣をつけし如く

一 おんとくハらくしんきよふれハつくらい

一 おごりをつのれバ世上のやかうひ

一 無慈悲（むじひ）の者へかゝハたゞしれだん人

一 ゑんりよハつねよの先日の事ならず

一 堪忍（かんにん）のならぬ心のもとのくろゆ

一 かんにんハその身の長久乃もとゐ

一 がまんハこゝろのあやまりどころ

一 けんくわハこゝろひろきもちやうらで

一 家内和合ハ福乃神のおまつり

一 ばくえきハ毒となるどくを飲むがごとし

一 ひとをあざむくハおのれをあざむくのもとゝし

一 人をそしるハおのれがあしきゆへ

一 天道をおそれぬハ人の身しらずぞ

一 [illegible]薬乃功能申あげてかぞへがたし 就ハ御用の御方ハ御好次第御求め被下べし

一 朝寝（あさね）のかんきんハその身代をうしなふの病氣

一 酒あそびハ身をそこねあまりどくとなる

一 なまけものハうちをきらしてまづしき人

一 ふかめんハおりこれよそのごとし

一 家業をはげめバ福ハおのづからの宝

一 よめハいつくしみのかんじんのおしへ

一 なることをきらふべからず

一 商人ハ正直をさきとし、ぞんさいハ父母のごとし

一 手代ハあるじをおもんずべく

一 老人がふハいちどゝのかわりもの

一 ならハぬ事ハ心のよしあしなで

一 たんきハそのもとゝなりやすきもの

一 福をまつハそのみなもとをはじめ

一 家内けんくわハ家業の事すつる

一 こうかうハきんちうくれぐれもあんあい

一 福神ハまめでよそりをかぎる

一 女房ハいつもいつものうわきの

一 ありがたやハかうやさかんなり

一 大酒ハいのちのちゞむもと

一 あく人ハうそのやくしやなり

家内和合所

腦中五臟通（なうちうごぞうどをり）

其身心得成

自身用心

此方より家毎へ一切出し不申